



溜渕 清裕さん
Tamaributi Kiyohiro

〔津志田区〕

たまりぶち きよひろ / 防災士。
平成26年3月に資格取得後、
地域住民や子どもたちへの講
演を通して、地域での備えの
大切さを伝えている。

いざというときに命を守るための の行動を日常から考える

「いざというとき、地域の皆さんの命を守るためには何が必要かを学ばなければという思いから、防災士の資格を取得しました」と話すのは、防災士として地域防災力の向上を担う溜渕清裕さん（津志

田区）。

防災士とは、自分の命は自分で守る「自助」、地域でお互いを助け合う「共助」、自治体などと連携しながら災害に強いまちづくりなどを目指す「協働」を基本理念として

活動し、防災の十分な意識と一定の知識・技能を有することを認証する民間資格。全国19万人以上が地域や職場などさまざまな場所で、防災力を高めるための活動に取り組んでいる。

溜渕さんが防災士になったきっかけは、津志田区の区長に就任したことだという。

「行政区の代表である区長は、災害が起こってしまっ

とき地域住民の命と財産を守る為に行動する責任があります。災害発生時に区長としてどんな行動が必要なのか学んでおかなければと思います」と、県が実施する地域防災リーダー養成研修『火の国ぼうさい塾』を受講した。

資格取得後は、日ごろからできる災害への備えやいざというときの行動などについて学びたいという行政区や小学校などからの要望を受けて講演や授業を行うなど、地域の防災力向上に貢献している。

「地域の皆さんや子ども達には、自分の命を守るために行動しようと呼んでいます。私自身、熊本地震を経験したとき、頭でわかっているけど体が動かず、何もできませんでした。日ごろから防災訓練などを通して災害に備えておくことが大切です」

近年、町内にも防災士の資格を持つ人が増えつつあり、防災士同士が連携した活動ができれば、と話す溜渕さんは、地域の防災リーダーとして安心安全な暮らしを支えるため模索し続ける。

広報 こうさ

2020年（令和2年）6月号
通巻611号